

ニガテをつぶして
土台を固める!

教材の使い方

講義

冬のコレだけ! 講義

どこでニガテになっているかを分析し、ていねいに解説。
まずは講義を読んで自分のニガテを認識し、理解につなげよう。
アイコンに注意して進めるとさらに効果的!

つまずき



よくある「つまずき」をピックアップ。
自分がどこでわからなくなっている
のかを具体的に確認しよう。

つまずき

解消 POINT

「つまずき」に対して、理解・定
着をはかる講義。ポイントを頭に
入れてもやもやを解消しよう。

演習

冬のコレだけ! 定着演習

様々な形式の実戦的な問題で理解度を確認しよう。

\ できたら OK! /

理解できているかを最終確認する問題。
ここまでできたらニガテ解消はバッチリ!

国語

CONTENTS

時間がないキミは、
★から優先的に取り組もう。 ※★は、国語学習の基礎になる、「特にこれだけは取り組んでおきたいユニット」につけています。

			つまずき度	取り組み時間	
★	ユニット1	古文知識① 助動詞の活用		30分	p.国語1
	ユニット2	古文知識② 助動詞の接続		30分	p.国語5
	ユニット3	古文知識③ 助動詞の意味		30分	p.国語9
別冊	「解答解説」				

③ラ変・形容動詞型……「り」「けり」「めり」「なり」(伝聞・推定)「なり(断定)」「たり(完了)」「たり(断定)」

基本形	り
未然形	ら
連用形	り
終止形	り
連体形	る
已然形	れ
命令形	れ

終止形が「り」で終わる助動詞はすべてこのパターン。ラ行変格活用動詞と似た活用をする。

断定の「なり」と「たり」は連用形が二つあることに注意。

基本形	なり	たり
未然形	なり	たり
連用形	なり	たり
終止形	なり	たり
連体形	なる	たる
已然形	なれ	たれ
命令形	(なれ)	たれ

④形容詞型(ク・シク活用)……「たし」「べし」「ごとし」「まし」「まほし」

基本形	べし	まし
未然形	べく	まじく
連用形	べく	まじく
終止形	べし	まし
連体形	べき	まじかる
已然形	べけれ	まじけれ
命令形	○	○

形容詞と似た活用をする。終止形が「し」「じ」で終わる助動詞のうち、「まし」「じ」「し」「ら」「り」以外はこのパターン。

⑤助動詞ごとに活用を覚えるグループ

……「むず(んず)」「ぬ」「き」「ず」「まし」「じ」「らし」このグループは助動詞ごとに活用パターンが異なるよ。

ナ変型		サ変型	
基本形	ぬ	基本形	むず
未然形	な	未然形	○
連用形	に	連用形	○
終止形	ぬ	終止形	むず
連体形	ぬる	連体形	むずる
已然形	ぬれ	已然形	むずれ
命令形	ね	命令形	○

「むず」は推量の助動詞「む」に格助詞「と」、サ変動詞「ず」が接続してできた「むとず」が変化したもので、サ変動詞と似た活用をする。「ぬ」はナ変動詞と同じ活用をする。

特殊型		
基本形	まし	ず
未然形	ましか	ず
連用形	○	ず
終止形	まし	ず
連体形	まし	ぬ
已然形	ましか	ね
命令形	○	○

「せ、まる、き、し、しか、まる」などと繰り返し声に出しながら覚えよう。

無変化型	
基本形	らし
未然形	○
連用形	○
終止形	らし
連体形	らし
已然形	○
命令形	○

「じ」「し」「ら」は活用しても形が変わらない。

定着演習で理解を確認!
NEXT

冬のコレだけ！ 定着演習
助動詞の活用の覚え方

問一 次の助動詞の活用表を完成させよ。

(1) 「つ」

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形

(2) 「まで」

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
		○		○	○

(3) 「ず」

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
		○			○

問二 次の文中の傍線部の助動詞について、①終止形と②ここでの活用形を答えよ。②はア～カから選んで記号で答えよ。(記号は同じものを何度選んでもよい。)

- ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形
オ 已然形 カ 命令形

(1) 心も知らざらん人に取りかかりて、……。 (『宇治拾遺物語』)

① () ② () ()

(2) なめげなるものに、おぼしめしとどめられぬるなむ、……。 (『竹取物語』)

① () ② () ()

(3) さらずまかりぬべければ、……。 (『竹取物語』)

① () ② () ()

(4) 雪のおもしろう降りたりし朝、……。 (『徒然草』)

① () ② () ()

(5) この女をこそ得めと思ふ。 (『伊勢物語』)

① () ② () ()

冬のコレだけ！ 講義
接続による助動詞の見分け方

助動詞には、同じ形の活用形を持つものや、別の助動詞が同じ形の活用形を持つ場合があるが、これも接続に着目すると判別できる。

ワーク 次の問題に取り組んで、理解を確認しよう

次の傍線部の助動詞は、次のどちらか。

- ア 打消の助動詞「ず」
- イ 完了の助動詞「ぬ」

翁は泣き嘆く。あたはぬことなり。

(竹取物語)

() ()

答えはこのページの

同じ形で別の助動詞、どうやって見分ければいいかわからない！ 同じ形の別の助動詞を見分けるポイントはここ！

POINT 1 直前の語に着目して接続から見分ける

助動詞によって接続が違つので、直前が活用語の場合は、その活用形に着目すれば、どの助動詞なのか判別できる

POINT 2 直後に着目して活用形から見分ける

直後に続く語に着目すると、その助動詞の活用形がわかり、活用を考えれば、どの助動詞なのか判別できる

POINT を使ってワークを解く流れを確認しよう

「ぬ」という形に活用する助動詞は次の二つ。

打消の助動詞「ず」の連体形（未然形に接続）
完了の助動詞「ぬ」の終止形（連用形に接続）

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ぬ	ず	ず	ず	ぬ	ね	ぬ
ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ

POINT ① 直前の語に着目して接続から見分ける

直前は四段活用動詞「あたふ」の未然形
「あたふ」は「は／ひ／ふ／へ／へ」と活用する。

あなたはぬことなり。
「ぬ」は未然形接続の助動詞

今回の場合は、この段階で「ぬ」は打消の助動詞「ず」の連体形とわかる

POINT ② 直後に着目して活用形から見分ける

直後は体言
あなたはぬことなり。
「ぬ」は連体形

この方法でも「ぬ」は打消の助動詞「ず」の連体形とわかる

接続から助動詞が見分けられれば、その助動詞の直前の動詞が同じ形の活用形を持つ場合も活用形を判別できる。

下一段活用動詞の未然形もしくは連用形
月 出でぬ。
「直後は句点」

助動詞「ぬ」は連用形接続なので「出で」は連用形

定着演習で理解を確認！

NEXT

ワークの答え ア

冬のコレだけ！ 定着演習

問一 次の助動詞はそれぞれの活用形に接続するか。当てはまる助動詞をすべて答えよ。同じ語を二回使ってもよい。

- むず めり つ ごとし る べし き
- しむ ず まほし けり ぬ たり たし
- らし さす まじ なり らる らむ けむ
- む まし り す じ

- (1) 未然形接続 ()
- (2) 連用形接続 ()
- (3) 終止形接続 ()
- (4) 体言・連体形接続 ()
- (5) サ変動詞未然形・四段動詞已然形接続 ()

問二 次の傍線部の動詞の活用形を答えよ。

(1) 竹取の翁といふ者ありけり。 (竹取物語) () 形

(2) 海のありやうも見えず。 (土佐日記) () 形

(3) 船に乗るべき所へ渡る。 (土佐日記) () 形

(4) 若き人々やがて試みさせ給ひて、……。 (堤中納言物語) () 形

(5) 女のえ得まじかりけるを、……。 (伊勢物語) () 形

問三 次の傍線部の助動詞は何か。ア～エから選んで記号で答えよ。同じものを何度選んでもよい。

ア 完了の助動詞「たり」 イ 断定の助動詞「たり」
ウ 伝聞・推定の助動詞「なり」 エ 断定の助動詞「なり」

(1) 「えい。」といらへたりければ、……。 (『宇治拾遺物語』)

()

(2) その寺の上臈じやうらふたる老僧の夢に、……。 (『今昔物語集』)

()

(3) 蛙の飛び入りて焼くるなりけり。 (『枕草子』)

()

(4) 男もすなる日記といふものを、……。 (『土佐日記』)

()

(5) おのが身は、この国の人にもあらず。月の都の人なり。 (『竹取物語』)

()

問四 次の傍線部の助動詞の①基本形(終止形)と②ここで活用形を答えよ。

(1) 取りかかるべくもおほえざりければ、走り退のきぬ。 (『宇治拾遺物語』)

① () ② () 形 ()

(2) 法師ばかりうらやましからぬものはあらず。 (『徒然草』)

① () ② () 形 ()

(3) 鬼に神取られたるやうにて、……。 (『宇治拾遺物語』)

① () ② () 形 ()

(4) 三千人まで候ひ合ひ給へる女御・后、……。 (『唐物語』)

① () ② () 形 ()

(5) この歌よしとはあらねど、……。 (『土佐日記』)

① () ② () 形 ()

別冊「解答解説」P. 国語5で必ず答え合わせしよう。
答え合わせができれば復習完了！

完了!

古文知識③ 助動詞の意味

冬のコレだけ！ 講義

助動詞が理解できると、古文の意味が細かい部分まで正確に理解できる。それぞれの助動詞の代表的な意味、文脈上の意味の見分け方を覚えよう。

ワーク 次の問題に取り組んで、理解を確認しよう

次の文の傍線部の助動詞は、ここではどんな意味で用いられているか。適切なものを選んで記号で答えよ。

「まろ、この歌の返しせむ。」
(私私)

ア 完了 イ 存続 ウ 打消 エ 意志 オ 推量

答えは100ページの下の

わからないときは
ポイント確認動画
「高校講座アプリ」で読み込もう。

AJFCA01301

つまずき 助動詞はたくさんあって、どれがどんな意味なのか覚えられない！

つまずき **解消 POINT 1** 各助動詞の代表的な意味を覚えよう！

いきなり全部の助動詞の意味を覚えるのは大変。まず、グループに分けて、代表的な意味を押さえておこう。

つまずき **解消 POINT 2** 意味の見分け方のコツを覚えて、判断する手がかりにしよう！

一つの助動詞にいくつもの意味があって、どんな意味で用いられているのか見分けられない！

※見分け方のコツは、助動詞の意味を判別するための手がかりとして役に立つが、絶対的なものではない。コツを使って意味の見当をつけたら、必ず文脈を確認するようにしよう。

つまずき **解消 POINT 1** 各助動詞の代表的な意味を覚えよう！

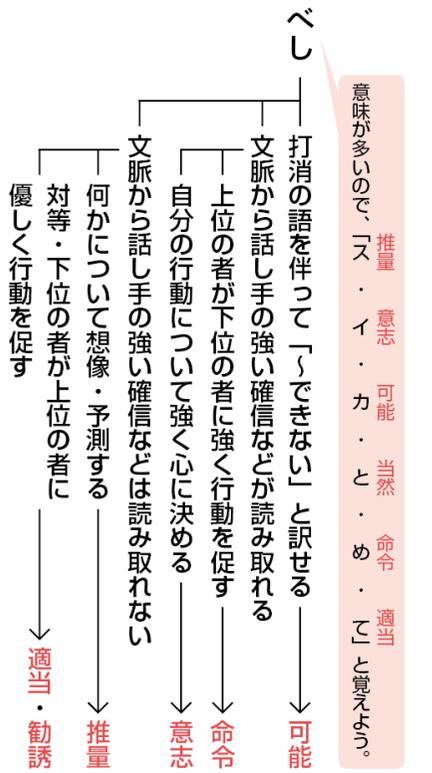
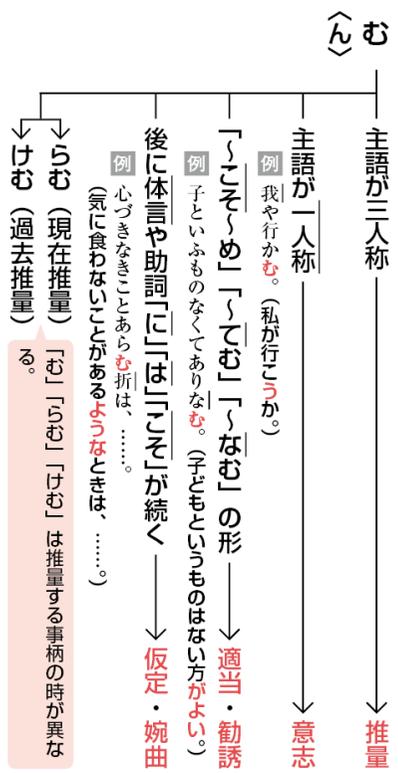
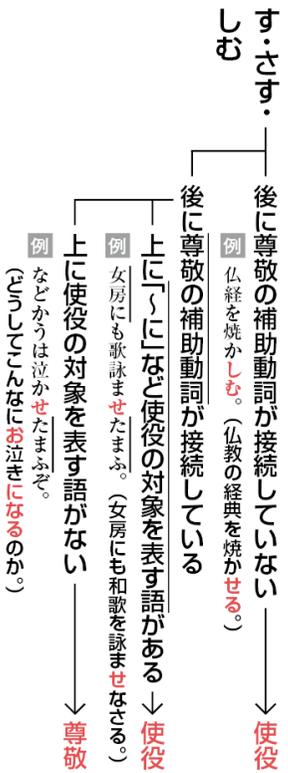
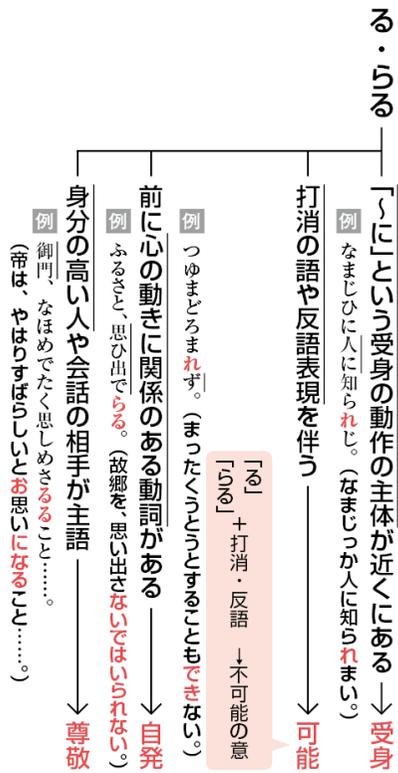
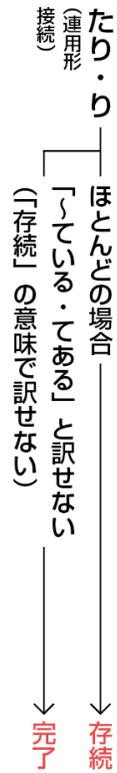
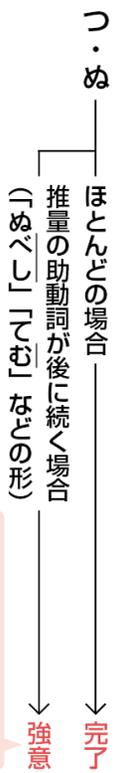
代表的な意味	属する助動詞	例文
過去	き・けり	今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。 (今となつては昔の話だが、竹取の翁という者がいたぞうだ。)
完了	つ・ぬ・たり・り	明けぬれば帰り給ひぬ。 (夜が明けてしまつたのでお帰りになつてしまつた。)
受身・可能・自発・尊敬	る・らる	受身 なまじひに人に知られじ。 (なまじつかに人に知られまい。) 可能 つゆまどろまれず。 (まったりくうとうとすることもできなかつた。) 自発 ふるさと、思ひ出でらる。 (故郷を、思い出さないとはいられない。)
使役・尊敬	す・さす・しむ	使役 女房にも歌詠ませたまふ。 (女房にも和歌を詠ませなさい。) 尊敬 などかうは泣かせたまふぞ。 (どうしてこんなに泣きになるのか。)
推量	む・らむ・けむ・べし・まし	香炉峰の雪いかならむ。 (香炉峰の雪はどのようだろう。)
打消	ず・じ・まじ	人々忘れず。(人々は忘れない。)

つまずき **解消 POINT 2** 意味の見分け方のコツを覚えて、判断する手がかりにしよう！



先パイが答えた/
テスト・模試での
つまずき度

取り組み
時間
30分



- す …… 打消
- じ …… 「む」の打消
- まじ …… 「べし」の打消



冬のコレだけ！ 定着演習

問一

次の助動詞の代表的な意味を後の語群から選べ。同じ語を何度選んでもよい。(5)、(6)は当てはまる意味をすべて選べ。

- | | |
|--------------|-----|
| (1) む・べし・まし | () |
| (2) ず | () |
| (3) き・けり | () |
| (4) つ・ぬ・たり・り | () |
| (5) る・らる | () |
| (6) す・さす・しむ | () |
-
- | | | | |
|------|------|------|------|
| ア 受身 | イ 打消 | ウ 尊敬 | エ 過去 |
| オ 使役 | カ 自発 | キ 可能 | ク 推量 |
| ケ 完了 | | | |

問二

次の文中の傍線部の現代語訳として正しいものを選んで、記号で答えよ。

- (1) ほとりに松もありき。 (土佐日記)
 ア あるだろう イ あった ウ あるはずだ ()
- (2) ……おろかにせんと思はんや。 (徒然草)
 ア 思うだろうか イ 思わないのか ウ 思ったのか ()
- (3) ……いとほし、かなしとおぼしつることも失せぬ。 (竹取物語)
 ア お思になるだろう イ お思になるような ウ お思になった ()
- (4) 殿上に人候はざりけるほど、…… (枕草子)
 ア お仕え申し上げていなかった
 イ お仕え申し上げていた
 ウ お仕え申し上げるはずだった ()
- (5) 宮仕へつかうまつらずなりぬるも、…… (竹取物語)
 ア ならないことも イ なってしまうことも
 ウ なるであろうことも ()

問三

次の文中の傍線部の助動詞のここでの文法的意味を、次のア〜コから選んで、記号で答えよ。

- ア 推量
- イ 意志
- ウ 命令
- エ 可能
- オ 自発
- カ 尊敬
- キ 使役
- ク 過去
- ケ 詠嘆
- コ 完了

(1) 我は討ち死にせむと思ふなり。

(平家物語)

(2) 羽なければ、空をも飛ぶべからず。

(方丈記)

(3) 名を聞くより、やがて面影はおしはからるる心地するを、……。

(徒然草)

(4) 帝と御心合はせさせ給へりけるとぞ。

(大鏡)

(5) 今はとて 天の羽衣 着る折ぞ
君をあはれと 思ひ出でける

(竹取物語)

問四

次の文中の傍線部の助動詞の①終止形と②ここでの文法的意味を答えよ。

(1) つゆ忘るるにはあらねど、……。

(徒然草)

(2) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども……

(古今和歌集)

(3) 道知れる人もなくて、……。

(伊勢物語)

(4) 敵に焼き殺されたりと言はれんずるは、……。

(義経記)

問五

次の文中の傍線部を現代語訳せよ。

およそ能登守教経の矢先にまはる者こそなかりけれ。

……多くの者ども討たれにけり。

(平家物語)

別冊「解答解説」P国語9で必ず答え合わせしよう。
答え合わせができれば復習完了!



問一

解答

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
(1) 「つ」	て	て	つ	ひる	つれ	てよ
(2) 「まじ」	まじく	まじく	まじ	まじぎ	まじけれ	○
(3) 「ず」	ず	ず	ず	ぬ	ね	○

「つ」はタ行下二段活用動詞と同じ、「まじ」はシク活用形容詞と似た活用をする。「ず」は特殊型の活用だ。活用表は、何度も繰り返し声に出して覚えよう。

△落とし穴

本活用と補助活用がある助動詞に注意！

「まじ」「ず」のように活用表が二列になっている助動詞は、左側の列を補助活用と言い、主に後に助動詞が続くときに用いられる。

問一

(1) 心も知らざらん人に取りかかりて、……。

「つひ」という形になる助動詞は「ず」の未然形のみ

問一(3)の「ず」の活用表と照らし合わせてみよう。

活用表を覚えていれば、他の助動詞の活用表に同じ形がない場合、形をみただけで終止形と活用形が判断できる。

解答 ①ず ②ア

現代語訳 考えもわからないような人に襲いかかって、……。

(2) なめげなるものに、おぼしめしとどめられぬるなむ、……。

「ぬる」という形になる助動詞は「ぬ」の連体形のみ

助動詞「ぬ」は「な／に／ぬ／ぬる／ぬれ／ね」とな変動詞と同じ活用をする。

解答 ①ぬ ②エ

現代語訳 無礼な者として、お心におとどめになられてしまったことが、……。

(3) さらすまかりぬべければ、……。

「べけれ」という形になる助動詞は「へし」の已然形のみ

助動詞「べし」は「べく・べから／べく・べかり／べし・〇／べき・べかる／べけれ・〇／〇」とク活用形容詞型の活用をする。

解答 ①ベし ②オ

現代語訳 やむを得ず(月に)おいとましなければならぬので、……。

(4) 雪のおもしろう降りたりし朝、……。

「し」という形になる助動詞は「き」の連体形のみ

助動詞「き」は「せ」／〇／き／し／しか／〇」と特殊型の活用をする。

解答 ①き ②エ

現代語訳 雪が趣深く降っていた朝、……。

(5) この女をこそ得めと思ふ。

「め」という形になる助動詞は「む」の已然形のみ

助動詞「む」は「ま」／〇／む／へん／む／へん／め／〇」と四段型の活用をするが、連用形と命令形はない。

解答 ①む ②オ

現代語訳 この女を妻にしめうと思ふ。

問三

(1) 顔は草の葉の色にてゐたまへり。

・「り」という形になる助動詞は、「り」の連用形か終止形
・文末にある↓終止形

同じ形が二つ以上あるときは、形の上からはどの活用形かわからない。そういう場合は文中のどこにあるか、後に続く語が何か、といったことから活用形を判断する。

解答 ①り ②ウ

現代語訳 顔色は草の葉の(ように)青い(色で)座っていらっしやる。

(2) 今は逃ぐとも、よも逃がさじとおほえければ、……。

・助動詞「じ」は無変化型で形だけでは判断できない
・後に引用の「と」が続いている↓終止形

引用の格助詞「と」は、会話や思ったことの内容を引用するのに用いる。そのため文の途中に見えても、「と」の前は文末に当たることが多い。「今は逃ぐとも、よも逃がさじ」と……」のように、カギカッコをつけられるか文脈から判断しよう。

解答 ①じ ②ウ

現代語訳 今は逃げて、決して逃がさないだろうと思われたので、……。

(2) その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たり(けり)。

・文中に係助詞「なむ」がある↓係り結びで文末は連体形になる

・助動詞「けり」の連体形は「ける」

文中に係助詞があるときは、係り結びになる。助動詞「けり」は「(けら)〇/けり/ける/けれ/〇」と活用する。

解答 ける

現代語訳 その男は、しのぶずりへししのぶ草でつけた模様<の狩衣を着ていた。

(3) かく見せ(つ) 造麻呂を喜び給ふ。

・後に体言「造麻呂」が続いている↓連体形
・助動詞「つ」の連体形は「つる」

助動詞が文中にある場合は、後に続く語が何か、ということから活用形を判断する。「つ」の後に続く「造麻呂」は体言。体言が後に連なるから連体形になる。助動詞「つ」は「て/て/つ/つる/つれ/てよ」と活用する。

解答 つる

現代語訳 このように(かぐや姫を)見せた造麻呂のことを(帝は)お喜びになる。

(4) ……人の言ひ漏らさむを聞きつけ(たり)む時、……。

・後に助動詞「む」が続いている↓未然形
・助動詞「たり」の未然形は「たら」

助動詞が文中にある場合は、後に続く語が何か、ということから活用形を判断する。助動詞「む(ん)」や助動詞「ず」が後に続くときは、未然形になる。

解答 たら

現代語訳 ……人がこっそりうわさするようなのを聞きつけてしまったようなときは、……。

♪できたらOK! /

(5) ……とありしこそ、あさましく、むくつけく、恐ろしかり(き)。

・文中に係助詞「こそ」がある↓係り結びで文末は已然形になる
・助動詞「き」の已然形は「しか」

文中に係助詞があるときは、係り結びになる。助動詞「き」は「(せ)〇/き/し/しか/〇」と活用する。

解答 しか

現代語訳 ……(という言葉が)あったことは、意外で、不気味で、恐ろしかった。

テスト つつながる活用の覚え方のヒント

助動詞の活用を効率よく覚えるためには、口と手を使おう。黙って活用表を目で追うだけではなかなか覚えられない。「れ、れる、るる、るれ、れよ」「せ、まる、き、し、しか、まる」などと、声に出して何回も活用を繰り返して覚えるのが王道だよ。また、問一のように活用表を自分で書いてみることも効果的だ。

助動詞の接続

問一

解答

(1) 未然形接続

る らる す さす む むす
ず じましまほし しむ

(2) 連用形接続

き けり つぬ たり
たし けむ

(3) 終止形接続

めり なり まじ らし
らむ べし

(4) 体言・連体形接続

なり たり ごとし

(5) サ変動詞未然形・

四段動詞已然形接続 り

問一

(1) 竹取の翁といふ者ありけり。

「けり」は連用形接続の助動詞→「あり」は連用形

解答 連用(形)

現代語訳

竹取の翁という者がいたそつだ。

(2) 海のありやうも見えず。

「ず」は未然形接続の助動詞→「見え」は未然形

解答 未然(形)

現代語訳

海の様子も見えない。

(3) 船に乗るべき所へ渡る。

「べき(へし)」は終止形接続の助動詞→「乗る」は終止形

解答 終止(形)

現代語訳

船に乗るはずの場所へ行く。

△落とし穴

終止形接続の助動詞に注意!

終止形は文末に多い活用形だが、文末以外でも用いられることがある。終止形接続の助動詞が後に続くときは、活用語は終止形になる。

(4) 若き人々やがて試みさせ給ひて、……。

「させ(さす)」は未然形接続の助動詞↓「試み」は未然形

解答 未然(形)

現代語訳 若い人々にすぐに試させなされて、……。

(5) 女のえ得まじかりけるを、……。

「まじかり(まじ)」は終止形接続の助動詞↓「得」は終止形

解答 終止(形)

現代語訳 女で手に入れることができずともなかつた女を、……。

「得」はア行下二段活用動詞で「え／え／う／うる／うれ／えよ」と活用し、漢字で書かれていると「う」「え」どちらに読むのかわからない。後に続く助動詞「まじ」の接続から、ここでは終止形で「う」と読むと判断できる。

問三

「たり」「なり」にはそれぞれ二つの別の助動詞があるが、接続が異なる。

完了の「たり」…活用語の連用形に接続する

断定の「たり」…体言に接続する

伝聞・推定の「なり」…活用語の終止形(ラ変型の活用語の場合は

連体形)に接続する

断定の「なり」…体言、活用語の連体形に接続する

(1) 「えい。」といらへたりければ、……。

「いらへ」は下二段活用動詞↓「たり」は完了の助動詞

解答 ア

現代語訳 「はい。」と返事をしたので、……。

「いらふ」は「へ／へ／ふ／ふる／ふれ／へよ」と活用する。「いらへ」となるのは未然形と連用形だが、「たり」の接続から、ここでは連用形と判断できる。

(2) その寺の上臈たる老僧の夢に、……。

「上臈」は体言↓「たる(たり)」は断定の助動詞

解答 イ

現代語訳 その寺の高徳の僧である老僧の夢に、……。

断定の助動詞「たり」は体言のみに接続し、用言に接続することはない。

(3) 蛙の飛び入りて焼くるなりけり。

「焼くる」は下二段活用動詞の連体形↓「なり」は断定の助動詞

解答 **工**

現代語訳 蛙が飛び込んで焼けるのだった。

燃える^ゝという意味の「焼く」は「け／け／く／くる／くれ／けよ」と活用する。燃やす^ゝという意味の四段活用動詞「焼く」とは区別しておく。

(4) 男もすなる日記といふものを、……。

「す」はサ変動詞の終止形↓「なる(なり)」は伝聞・推定の助動詞

解答 **ウ**

現代語訳 男もするとかいう日記というものを、……。

サ行変格活用動詞「す」は「せ／し／す／する／すれ／せよ」と活用する。

(5) おのが身は、この国の人にもあらず。月の都の人なり。

「人」は体言↓「なり」は断定の助動詞

解答 **工**

現代語訳 私の身は、この国の人でもない。月の都の人である。

断定の助動詞「なり」は連体形だけでなく体言に接続することも多い。なお、「人にもあらず」の「に」も断定の助動詞「なり」で、連用形。断定の助動詞「なり」は「なら／なり・に／なり／なる／なれ／(なれ)」と活用する。

問四

(1) 取りかかるべくもおぼえざりければ、走り退きぬ。

・「ぬ」という形になる助動詞は「ぬ」の終止形と「ず」の連体形
・文末にあり、その前の語「退き」は連用形↓「ぬ」は助動詞「ぬ」の終止形

解答 ①ぬ ②終止(形)

現代語訳 襲いかかることができるとも思われなかったので、走って逃げた。

文中に係助詞などはないので、文末にある「ぬ」は終止形とわかる。「退き」は力行四段活用動詞「退く」の連用形。完了の助動詞「ぬ」は連用形に、打消の助動詞「ず」は未然形に接続する。

(2) 法師ばかりうらやましからぬものはあらず。

・「ぬ」という形になる助動詞は「ぬ」の終止形と「ず」の連体形
・「ぬ」の前の活用語は未然形で、後の語「もの」は体言↓「ぬ」は助動詞「ず」の連体形

解答 ①ず ②連体(形)

現代語訳 法師ほどうらやましくないものはないだろう。

「うらやましから」はシク活用形容詞「うらやまし」の未然形。また、直後に続く語「もの」は体言なので、完了の助動詞「ぬ」(連体形は「ぬる」)は当てはまらない。

(3) 鬼に神取られたるやうにて、……。

「れ」という形になる助動詞は「る」の未然形・連用形と「り」の已然形・命令形
・「れ」の前の語は未然形で、後の語「たる（たり）」は連用形接続
↓「れ」は助動詞「る」の連用形

解答 ①る ②連用（形）

現代語訳 鬼に魂を取られたようであって、……。

「取ら」はラ行四段活用動詞「取る」の未然形。受身・可能・自発・尊敬の助動詞「る」は未然形に、完了の助動詞「り」は四段活用動詞には已然形に接続する。「たる」は活用語の連用形に接続する完了の助動詞「たり」の連体形。

(4) 三千人まで候ひ合ひ給へる女御・后、……。

「る」という形になる助動詞は「る」の終止形と「り」の連体形
・「る」の直後の語は体言↓「る」は助動詞「り」の連体形

解答 ①り ②連体（形）

現代語訳 三千人ほど一緒にお仕え申し上げなさっている女御・后、……。

この「る」の直後は「女御・后」と体言なので、「る」は「り」の連体形と判断できる。

「り」はサ変動詞の未然形か四段動詞の已然形に接続する。「給へ」はここでは補助動詞。補助動詞の「給ふ」には四段活用と下二段活用があるが、「り」の接続から、「給へ」は四段活用の已然形とわかる。

／＼きたらOK！

(5) この歌よしにはあらねど、……。

「ね」という形になる助動詞は「ぬ」の命令形と「ず」の已然形
・「ね」の直前の語は未然形↓「ね」は助動詞「ず」の已然形

解答 ①ず ②已然（形）

現代語訳 この歌が上手というわけではないが、……。

助動詞「ぬ」は連用形に、「ず」は未然形に接続する。「ね」の直前の語はラ行変格活用動詞「あり」の未然形。

テスト 模試 につながる助動詞の接続の「コツ」

助動詞の接続を覚えると、その助動詞が何なのかを判別することができるだけでなく、問四(4)のように、直前の動詞の活用が判断できたりする。文法問題を解くときに役に立つうえに、古文を読解する際にも大いに助けになるよ。

問一

解答

- (1) ク (2) イ (3) エ (4) ケ
(5) ア・キ・カ・ウ (順不同)
(6) オ・ウ (順不同)

問一

- (1) ほとりに松もありき。
・「き」は過去の助動詞「き」の終止形
・過去の助動詞は「〜た」と訳す

解答
イ

現代語訳 そばに松(の木)もあった。

- (2) ……おろかにせんと思はんや。
・「ん(む)」は推量の助動詞「むへん」の終止形
・推量の助動詞は「〜だろ」「〜と訳す

解答
ア

現代語訳 ……いいかげんにしようと思つたらうか(いや、思わない)。

落し穴

「ん」を打消と判断しないよう注意!

「〜ではありませぬ」のようには、現代語では「ん」は打消の意で用いるが、古文では「ん」と表記される場合は推量の助動詞「む」だ。打消の意にはならないので注意しよう。

- (3) ……いとほし、かなしとおぼしつることも失せぬ。

・「つる」は完了の助動詞「つ」の連体形
・完了の助動詞は「〜てしまつ」「〜てしまった」「〜た」と訳す

過去の助動詞も「〜た」と訳すので、それと違いをはつきりさせるため、完了の助動詞は、「〜てしまふ」「〜てしまった」と訳すとよい。ただ、この文の「つる」のように「〜てしまふ」と訳すと表現が不自然なときは、「〜た」と訳そう。

解答
ウ

現代語訳 ……気の毒だ、かわいそうだとお思いになったことへ「気持ち」も消えてしまった。

- (4) 殿上に人候はざりけるほど、……。

・「ざり」は打消の助動詞「ず」の連用形
・打消の助動詞は「〜ない」と訳す
・「ける」は過去の助動詞「けり」の連体形
・過去の助動詞は「〜た」と訳す

解答
ア

この文では「候は」(動詞「候ふ」の未然形)に「ざり」「ける」の二つの助動詞が接続している。一語の自立語が複数の助動詞を伴う場合、品詞分解してどの助動詞なのか見分け、一語一語現代語に訳そう。

現代語訳 殿上の間に人がお仕え申し上げていなかった頃に、……。

(5) 宮仕へつかうまつらざるぬるも、……。

・「ぬる」は完了の助動詞「ぬ」の連体形

・完了の助動詞は「〜てしまつ」「〜てしまった」「〜た」と訳す

解答 イ

現代語訳 宮仕えをし申し上げなくなつてしまつても、……。

問二

(1) 我は討ち死にせむと思ふなり。

・「む」は助動詞「むへん」の終止形

・主語が一人称「我」↓意志の意であることが多い

・「〜よう」と訳して文脈に合う↓意志の意

解答 イ

助動詞「むへん」は、推量、意志、意、適當・勧誘、假定・婉曲の意味を持つ。

主語が一人称の場合は意志の意で用いられていることが多い。文脈も必ず確認しよう。

現代語訳 私は討ち死にしようと思うのだ。

(2) 羽なければ、空をも飛ぶべからず。

・「べから」は助動詞「べし」の未然形

・打消の助動詞「ず」を伴っている↓可能の意であることが多い

・「〜べからず」を「〜できない」と訳して文脈に合う↓可能の意

解答 エ

助動詞「べし」は、推量、意志、可能、当然・義務、命令、適當・勧誘の意味を持つ。

現代語訳 羽がないので、空を飛ぶこともできない。

(3) 名を聞くより、やがて面影はおしはかるる心地するを、……。

・「る」は受身・可能・自発・尊敬の助動詞「る」の連体形

・「る」の前は心の動きに関係のある動詞↓自発の意であることが多い

・「自然と〜れる」「〜ないではいられない」と訳して文脈に合う↓自発の意

解答 オ

「おしはかる」は「想像する・推量する」という意味で、現代語の「推し測る」もほぼ同じ意味。心の動きを示す語だ。

現代語訳 名前を聞かやいなや、すぐに自然と（その人の）顔つきが想像される気持ちがあるが、……。

(4) 帝と御心合はせさせ給へりけるとぞ。

- ・「させ」は使役・尊敬の助動詞「さす」の連用形
- ・後に尊敬の補助動詞「給へ」が接続しており、「〜に」など使役の対象を表す語がない↓尊敬の意と考えられる
- ・「〜なせる」「お〜になる」と訳して文脈に合う↓尊敬の意

「給へ」は尊敬の補助動詞「給ふ」の已然形。

解答 **力**

現代語訳 帝とお心をお一つになさっていたということだ。

(5) 今はとて天の羽衣着る折ぞ君をあはれと思ひ出でける

- ・「ける」は過去の助動詞「けり」の連体形
- ・和歌の中に用いられている↓詠嘆の意と考えられる
- ・「くだなあ」「くだったなあ」と訳して文脈に合う↓詠嘆の意

和歌や会話文中に用いられた「けり」は詠嘆の意であることが多い。ここでは、「ぞ」との係り結びで連体形「ける」となっている。

解答 **ケ**

現代語訳 もうこれまでということまで天の羽衣を着る時にあなたをいとしと思ひ出したのだなあ。

問四

(1) つゆ忘るるにはあらねど、……。

- ・「ね」という形になる助動詞は完了の「ぬ」の命令形か、打消の「ず」の已然形
- ・「ね」の前の「あら」はラ行変格活用動詞「あり」の未然形
- ↓「ね」は未然形接続・打消の「ず」の已然形

現代語訳 忘れるのではなくないけれど、……。

解答 ①ず ②打消

同じ形の別の助動詞は、接続から判別できることが多い。完了の助動詞「ぬ」は活用語の連用形に、打消の助動詞「ず」は活用語の未然形に接続する。

(2) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども……

- ・「ぬ」という形になる助動詞は完了の「ぬ」の終止形か、打消の「ず」の連体形
- ・「ぬ」の後には引用の「と」が接続しており、係助詞もないので、「ぬ」は終止形
- ↓完了の「ぬ」の終止形

解答 ①ぬ ②完了

「ぬ」の前の「来」はカ行変格活用動詞。漢字で書かれていると、未然形の「こ」なのか、連用形の「き」なのかかわからず、接続からは「ぬ」が完了か打消か判別できない。このようなときは「ぬ」の後に続く語に着目して、「ぬ」の活用形を先に判断するとよい。

現代語訳 秋が来たと目にははっきりと見えないけれど……

落とし穴

活用形がわからない漢字に注意!

動詞「来」「得」「経」などは漢字で書かれていると活用形がわからない。助動詞の前がこういった動詞の場合は、前の接続からはその助動詞が判別できないので、助動詞の後に続く語に着目して助動詞の活用形を特定し、どの助動詞かを見分けよ。

(3) 道知れる人もなくて、……。

- ・「る」という形になる助動詞は存続・完了の「り」の連体形か、受身・可能・自発・尊敬の「る」の終止形
- ・後に「人」という体言が続く→存続・完了の「り」の連体形
- ・「知ってゐる」と訳して文脈に合う→存続の意

「り」は存続の意を表すことが多い。

解答 ①り ②存続

現代語訳 道を知っている人もいなくて、……。

(4) 敵に焼き殺されたりと言はれんずるは、……。

- ・「れ」という形になる助動詞は完了の「り」の已然形・命令形か、受身・可能・自発・尊敬の「る」の未然形・連用形
- ・直後の助動詞「たり」は活用語の連用形に接続
- ↓受身・可能・自発・尊敬の「る」の連用形
- ・「敵に」という受身の動作の主体がある→受身の意

「れ」の前の「殺さ」がサ行四段活用動詞の未然形なので、その点からも「れ」が活用語の未然形に接続する助動詞「る」であるとわかる。

解答 ①る ②受身

現代語訳 敵に焼き殺されたと言われるようなことは、……。

／できたらOK！／

問五

およそ能登守教経の矢先にまはる者こそなかりけれ。……多くの者どもも討たれにけり。

「討た」は四段活用動詞の未然形 ↓「れ」は受身・可能・自発・尊敬の「る」の未然形か連用形	「れ」は未然形か連用形 ↓「に」は連用形接続の完了の助動詞「ぬ」の連用形	和歌や会話文中ではないので、「けり」は過去の助動詞
-------------------------------------------------	-----------------------------------------	---------------------------

「〜に」という受身の動作の主体を表す語はないが、文脈から「れ（る）」は「（教経に討た）れる」という受身の意と見当がつく。「にけり」という形はよく用いられるので、「完了+過去」で「〜てしまつた」と訳すと覚えておくといい。

解答 討たれてしまった

現代語訳 まったく能登守教経の矢が飛んでくる方向に立ちまわる者はいなかった。……多くの者が（教経に）討たれてしまった。

テスト 模試 につながる「尊敬」の意味を見分ける「ツ

助動詞「る」らる「や」す「ぞす」「しむ」が尊敬の意で用いられるのは、身分が高い人が主語になっている場合が多い。身分を表す語に着目するようにつまよう。

【例】帝／大臣／殿／院（上皇、法皇などの敬称）／
中宮（皇后・皇太后など）